



牛伏寺表門

## 特集●厄除觀音

# 牛伏寺にて



## 金峯山牛伏寺

中嶋嶺雄

### 牛伏寺の魅力

同じ大乗仏教なのに中国の寺と日本の寺とでは、どうしてこんなにも景観が異なるのだろう？ といった素朴な疑問に発し、結局、それは文治社会（中国）と武治社会（日本）の伝統の違い、「文」と「土」の民族性の違い、さらには日中間の美意識の違いに帰着するのではないかという結論に達している私は、正直なところ、中国の寺よりも日本の寺の方が美しいと思う。

日本の寺といつても、奈良や京都の名刹ばかりでなく、たとえば上田郊外の塩田平の前山寺や松本郊外・鉢伏山腹の牛伏寺といった



北アルプス連峰を望む

信州の山寺の鄙びた趣きがなんともいえない  
と私は感じている。

松本平の厄除觀音としても知られる牛伏寺  
(ごふくじ)は、唐の玄宗皇帝の使者が大般若  
經六百巻を二頭の牛に積み、善光寺への奉納  
の途中、この寺の麓で突然斃れたという因縁  
で命名された真言密教の寺で、藤原期の重要  
文化財を多数蔵した由緒ある一山である。赤

松、唐松、杉、檜の大木の茂りを背にした寺  
院全体の構成が見事で、五重の塔や三重の塔  
がないのに、これほど立体的なコンポジショ  
ンを形づくっている点でもユニークだ。

とくに開孔窓のような表門から見た本坊の  
格子の白壁、泉水池を隔てて見る如意輪堂の  
厚い萱葺屋根、觀音堂脇のいささかスリムな  
廻廊などは、私の好きな風景だ。松本平から  
は一般には見えない穂高連峰も、このあたり  
までくると姿を見せるのが、また格別である。

私の松本の山荘からは、車で二十分足らず  
なので、これまでにも何人かのお客を案内し  
たが、奈良や京都の寺を見てきた外国人が、  
ことのほか、この牛伏寺を気に入ってくれる。  
いささか郷土自慢が勝ちすぎているのではな  
いかと自戒しつつも、たまたま松本へ講演に  
行かれるという猪木正道先生(平和・安全保障  
研究所会長、青山学院大教授)にお話したとこ

ねられ、その雰囲気に魅せられて、今度は奥  
様をお連れしてまた行かれたとのことで、長  
く京大教授として京都の寺院を見つくされた  
猪木先生御夫妻がそう感嘆されるのだから、  
たんなる郷土自慢ではないと思つた次第であ  
る。

### これぞ淨土

数年前の夏、軽井沢の中央公論社の山荘で  
執筆していたとき、ドナルド・キーンさん(コ  
ロンビア大学教授)を塩田平にお連れしたこと  
があつた。キーンさんも日本の寺を知りつく  
している方だが、前山寺などを大変気に入っ  
ていただけたようで、今度は前山寺の法縁に  
も当たる牛伏寺へ御案内しますと約束しなが  
ら、まだ果たしていない。今夏こそはと思つ  
ていた矢先、近著『少し耳の痛くなる話』(新  
潮社)を贈つていただいて恐縮しているのだ  
が、私自身は、昨年の夏も、丁度お盆の入り  
の八月十三日の夕暮れ、或る客人を伴つて牛  
伏寺へ行つてきた。旧知の若僧正に本坊でお  
茶をいただいて外へ出ると、草木の香りを含  
んだ夏の涼気が肌をさすようで、その静寂の  
夜陰に、遠く近く松本平の灯が明滅し、これ  
ぞ淨土と一瞬悟つたのであつた。

(なかじま みねお 東京外国语大学教授)